



木材加工技術 (大工道具等)

■ 問い合わせ先
マルナオ株式会社
TEL: 0256-45-7001 FAX: 0256-45-7003
URL: <https://www.marunao.com>

大工道具の三種の神器の一つ「墨坪」に 欠かせない“墨坪車”の技を継承

昭和14年、父で仏壇彫刻師でもあった直悦氏が木工機械を導入し、墨坪車の製造を主軸とした木工業を創業。当時中学生だった健男氏は、家業を支える形で仕事に加わり、糸鋸を挽き始めた。墨坪車を皮切りに、糸巻やカルコへと手がける品目は増え、技術が身に付いたと実感したのは高校生の頃だという。

木工は製品ごとに使用する木材が異なり、樺、板屋楓、黒檀などが使い分けられる。墨坪車の材料は樺だ。樺は木目がはっきりしているため、板目に糸鋸の刃が入ると、木目に沿って刃が逃げ、曲がってしまう。切削で何より心血を注いだのは、墨坪車の“骨”を決して曲げないことだった。修行当時、わずかでも曲がったものは、父が全てストーブに投げ入れてしまったという。

「悪い物を作れば使う大工は二度と戻らない。良い物を作り続けることが一番大切だ」。職人として常に完璧を追い求めてきた健男氏は、これからも生涯現役の姿勢を貫いていく。



福田 健男

Fukuda Takeo
昭和18年生まれ

勤務先

マルナオ株式会社

中学生の頃から家業の手伝いを始める。

昭和33年、福田木工所(現マルナオ株式会社)に入社し、墨坪車の製造に携わる。

昭和58年、福田木工所を継承し、社名を有限会社フクダに改称。

現在は、マルナオ株式会社の取締役会長を務める



墨壺

手斧(ちょうな)、指金と並び、大工道具の三種の神器に数えられた墨坪。現代では工芸品としても知られている。



木造家屋の建設に欠かせない墨坪の部品の一つ「墨坪車」。戦後の住宅建設ラッシュの時代には、製造が追いつかないほどの需要があった。

マイスターの
ココがすごい!

樺や板屋楓、黒檀など素材それぞれの癖を見抜き、素早く正確に切断する木工技術は長年の経験で培われたもの。作り続けることこそが生きる証。その技は、日本の成長を静かに支えてきた。